

学生と教員の見方



【アピールポイント】
美味しいものを食べる
ことが大好きで実際に
赴き食事をするこ
とで幸せを感じます。

けでなくアーケードの庇も閉塞感を与えていると感じたので庇がなく開放感のある熱海の街というのを見てもたいと感じた。

【教員による展開】

（斎藤千尋教授）

熱海駅前を平和通り、仲見世のアーケード街を抜け、最近開業したと思しき店を見ることができると、それはかつての商店街の所在を伝えているようである。まちなみイブ柄のテント材に、背後の構造が今も息づいていることが感じられる。

よるもので、観光地に来たという気分にしてくれるはずなのだが、やや汚れているアーケードの情報は含まれていない。街区の中にある屋根だけの建物はわかるが、道路上の屋根は記録されていない。屋根の姿はな

くとも、アーケードのある通りであることを示す路線データがあるとデータの使い勝手がよくなる。

【学生の見方&考え方】
（3年 藤廣智也）

熱海はバブル期中やバブル期前に温泉を魅力に全盛期を迎えたが、バブル崩壊と共に観光客の足も遠のき衰退の道をたどっていった。その後、行政や地元の人々の力もあり温泉や当時の

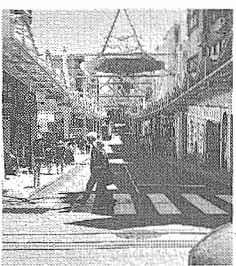


熱海の建物の前にはなぜ庇があるのか

街並みを魅力に観光客の復活を果たし現在の熱海となっている。

現地を半日ほど歩いてみると、まず平坦な土地が少なく坂が多く、建物が隙間なく並ぶ。その建物にアーケード状に連なる庇がついていることが多い

が暗い感じがした。平和通り商店街や熱海銀座やアーケードの屋根は意外と暗く感じず明るくに



市史から読み取るまちなみ背景

「防災建築街区」指定によるもの

なことはまずないため、アーケードや連続する庇が特徴的な熱海の建物に惹かれる。昭和当時の建物の写真を見てみるとそのころから庇が連なりアーケードを成

していたことが分かった。その後アーケードや庇を取

り除くことのような街並みた商店街の空き店舗をリノ